

日中協力林木育種プロジェクトフォローアップ セミナーへの参加

1. はじめに

日中協力林木育種プロジェクトは1996年から2008年にかけて湖北省武漢市を拠点に実施されたJICAのプロジェクトで、2001年からは安徽省でのマツノザイセンチュウ抵抗性育種も合わせて行なわれました。今回のセミナーは、そのプラットフォームを活用し、中国の植樹祭(3月11日)に合わせたイベントとして企画され、JICAと湖北省林業庁の共同開催で実施されました。

2. セミナーの内容

会場には、日本側はJICA職員や中国派遣中の専門家を含む10名、中国側は国家林業局や林業科学研究所、大学、湖北省林業局に加え南方各省から102名が集まり、ほぼ満席のにぎわいでした。発表は、日本側と中国側が交互に行いました。国家林業局の馬氏からは、現在の重要課題である国土緑化のため、林木育種により改良した優良種苗の普及に多くの力を注いでいるとの発表があり、中国政府の林木育種にける期待が非常に大きいことがうかがえました。

日本側の発表は「日本の林木育種戦略」「日中協力林木育種プロジェクトの成果」「スギの育種」「マツノザイセンチュウ抵抗性育種」について行われ、受講者からは活発な質問が飛び交いました。意外だったのは、花粉症対策についての質問が多かったことです。中国ではポプラやヤナギのアレル



写真-1 満席のセミナー会場
マツノザイセンチュウ抵抗性育種に関する質問をする受講者



写真-2 湖北省林木種苗場への現地視察
2003年にプロジェクトで造成したコウヨウザンの検定林。
6×6のダイアレル交配設計。

ギー(これらは花粉ではなく綿毛ですが)が問題になっており、無花粉スギの仕組みや選抜方法などについて高い関心があるようでした。南方各省ではマツ材線虫病被害が出てきているため、抵抗性育種の発表も熱心に聞いていただきました。抵抗性マツと防除との使い分けなどの現場的な面、忌避物質や遺伝子組換えについての研究的な面など多くの質問がありました(写真-1)。

3. 現地視察

翌日は、湖北省林木種苗場を視察しました(写真-2)。国家林業局と湖北省林業庁が共同で設立した種苗生産基地で、林木育種プロジェクトで選抜された育種材料や遺伝資源が集積されています。前述の優良種苗の普及に重要な役割を果たします。

4. おわりに

今回、初めての武漢で長江の雄大な流れに感動し、街中を疾走するスクーターが全て電動だったことに驚きました。そして、日中協力林木育種プロジェクトは、成果だけでなく育種事業を支える多くの人材を残したのだということを実感しました。今後のさらなる林木育種の発展を期待します。

(関西育種場 磯田圭哉)